

### ③社会に関わり続ける生涯現役

元気な高齢者が経験と知識を生かし、新たなしごとに挑戦することで、社会の担い手として重要な存在となり、第二の職場や地域で活躍している。

#### 2040年の生活シーン

##### <プロフィール>

- 60代後半の男性。阪神間の都市部に妻と2人で暮らしている。子どもは独立し、車で10分ほどのところに住んでいる。
- 妻が体調を崩しがちであることや、孫の育児の手助けをしたいこともあり、数年前に、それまで勤めていた県外の金融機関を退職し、自宅と同じ市内にある会社に転職した。

##### <スキルと時間を寄せ合う働き方>

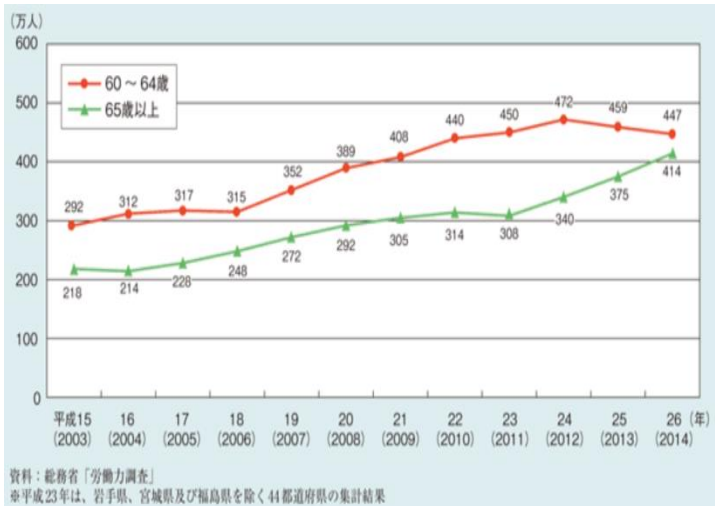
- 今の会社に移る前は金融機関の営業職に長く就いており、顧客に資金運用や事業展開を提案する際には、最新の会計や法務の知識を踏まえた上で行うよう心がけていた。転職を考えたときは、兵庫のものづくりに関わる仕事がしたいと思い、医療機器メーカーの内部監査部門の人材募集に応募したところ、それまでの経歴を買われて採用された。
- 職場では、高齢者の同僚とのコンビで、二人合わせてフルタイム勤務になるようにシフトを組んでいる。私の勤務日は、妻の通院に付き添えるように設定している。先月妻が入院したときは、その月の私の勤務日を減らすという対応を会社がとってくれ、同僚も協力してくれたおかげで、妻の世話をすることができた。
- 友人の中には、食品会社で勤務した経験を生かして、市場で旬の魚や野菜を仕入れて顧客に届ける会社を起こした者もいれば、4人一組でフルタイムになるシフト体制の飲食店で働いている者もいる。起業、フルタイム勤務、短時間勤務、在宅勤務など、いろいろな働き方ができるので、それぞれが、体調や私生活の状況に合わせて仕事を選び、生き生きと働いている。

##### <地域での役割>

- 孫の育児の手伝いが一段落したことから、放課後に、地域で子どもたちの勉強をみるボランティア活動に参加することにした。様々な家庭事情の子どもがいるが、根気よく話を聞き、分からないところは何度でも繰り返し教えている。この教室では、必要とする子どもには夕食も提供しており、ときどき私も子どもたちと料理をつくり、みんなで食べている。一緒に勉強したり、食事をしたりする中で、子どもたちのこれからの人生の手助けができればと思う。
- これからも、自分のできる範囲で社会や子どもたちのお役に立てていければと考えている。

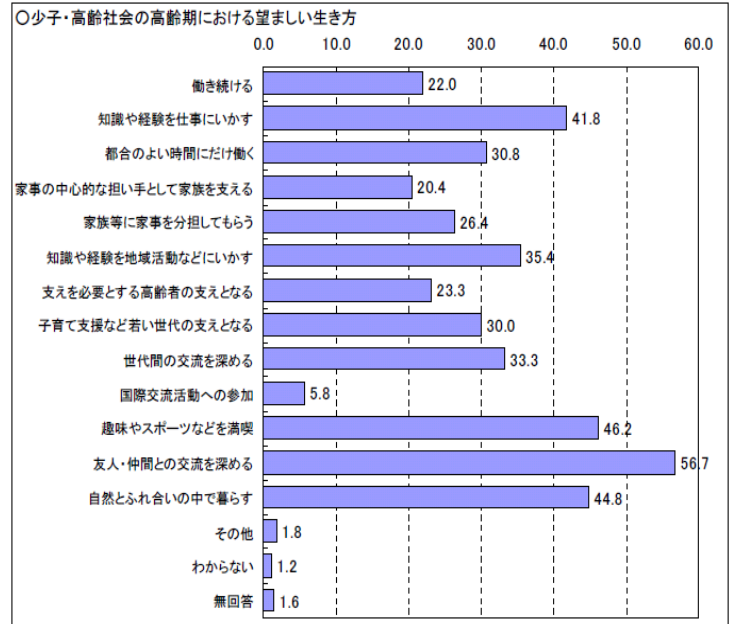
## 現状や課題

### 【雇用者数の推移（全産業）（国）】



(出典：内閣府「平成27年版高齢社会白書」)

### 【高齢期における望ましい生き方（県）】

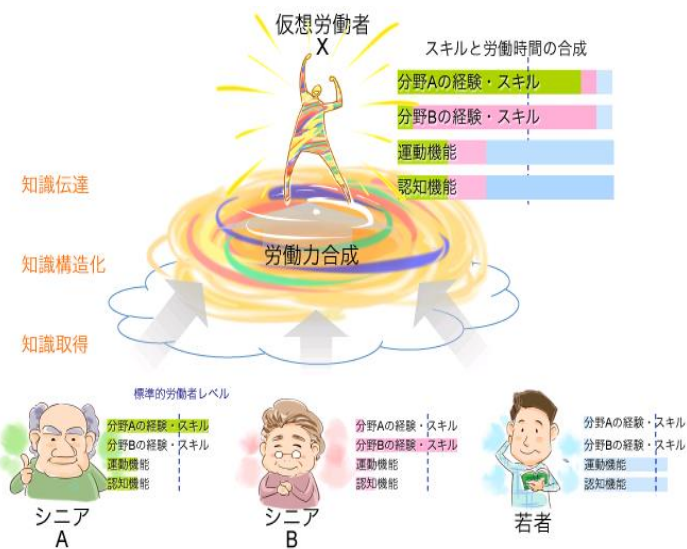


(出典：兵庫県「平成21年県民意識調査」)

## 見えてきた兆し

### 【潜在労働力の最大限の活用】

○「高齢者クラウド」のイメージ図



(出典：東京大学「高齢者クラウドの研究開発」HP)

### 【高齢者社会活動事例】



プレスクールでの論語の素読

(出典：兵庫県 HP)

### 【専門家等の意見】

- 高齢者がどれだけ価値を生み出す人々として扱われているかにより 2040年の社会は変わってくる。
- 元気で、新しい地域にも自分で出向いていける高齢者には、新しい雇用の場が必要である。